**第三小学校4年生の皆さんから、「お礼の手紙」が届きました。**

**聞こえない障がいや手話のことを、一生懸命学び、一生懸命考え、お礼の気持ちのこもった素敵なお手紙です。長いので、少し省略させていただき、ご紹介いたします。**

ぼくは、手話という言葉はしっていましたが、やり方はしりませんでした。ぼくたちは、学習発表会で、手話ができない人には筆だんで会話ができることは知っていました。しかし口もとを見せてゆっくり話すことや、空中に書いて教えることはしりませんでした。手話こうざでいろいろなことをまなびました。耳が聞こえない人は、つなみけいほうなどもきけないし、よばれていても気づかない、大変なことがたくさんあることを知りました。あと、自分の名前を手話でできるようになりました。もし耳のふじゆうな人に出会ったら、手話で自己しょうかいしたいです。

　ぼくは、自分が耳が不自由な人になったら、きこえないことでこまることがたくさんあると思います。たとえば家族とのコミュニケーションや、さいがいじサイレンなどこまることがたくさんあるので、これからどんなことができるかをかんがえていきたいと思います。一つ例をあげるなら筆だんをするためにメモちょうとペンやえんぴつをもっていたりしたらいいと思います。さらにできるなら手話などを覚えて耳が不自由な人とコミュニケーションをとってみたいです。

　わたしは、最初手話がわからなくてどうやったらいいか考えていました。みなさんが手話を教えてくれて、自分の名前も教えてもらえてうれしかったです。みなさんが手話で耳が不自由な人とお話ししていて、わたしは、すごいなと思いました。わたしは、みなさんに教えてもらった自分の名前を家族にみせました。ほかにもいろいろな手話を教えてもらって、わたしは、あいさつや名前をおぼえました。手話がおぼえられてうれしかったし、みんなと手話で会話ができてうれしかったです。

　ぼくは、最初、手話はそうかんたんにできるものだとは思いませんでした。だけど、やってみたら、そんなにむずかしくはありませんでした。自分の名前やあいての名前の聞きかたやあいさつのやり方が手話でできたから、その時はうれしかったです。時間がたつとたまにわすれるときもあるけど、思いだすからもうおぼえました。もし自分が耳が聞こえなくなったら手話やメモちょうでかくしかないけど、手話ができたから少しあんしんできました。

ぼくは、手話で名前を表すことはできたけれど、他にもいろいろな手話があることがわかったので、どんどん手話を覚えて耳が不自由な人のためにできることを考えていきたいです。耳が不自由なことは、とても大変だということがわかりました。耳が不自由な人たちが、明るく元気に生活できるように手助けしていきたいです。

わたしは、少し手話にきょうみがあって、手話こうざが楽しみでした。まず、どの人が耳の不自由な人でしょうという問題が出ました。「ええ、だれだろう。」と思いました。わたしは、一ど耳のきこえない人のことがのっている本をよんだことがあって、耳の不自由な人はみためだけではわかりにくいとかいてあって、あらためて思いました。

わたしは、「おはようございます。」や「こんにちは。」やいろいろなことをまなびました。びょういんでよばれていても耳が聞こえていないし、言葉も話せないので、わたしは、そういう人をたすけたいと思いました。手話ができなくても、筆だんや空中に書いたり、ゆっくり話すことはできるので、やりたいと思いました。わたしは、教えてもらった夕がたに家族と練習をしました。でも、できないこともあったけど、また家で手話の練習を続けていきたいと思いました。

最初に見た「家族でだれが耳が不自由なのでしょう。」というしつ問で、見ても、だれが耳が不自由な人か、まったくわかりませんでした。見た目ではわからないなと思いました。こまることもたくさんありそうだと思いました。考えてみるとこれからもたくさんのさいがいがいつおきるかわかりません。たとえば、さいがいのときのサイレンが聞こえなかったり、「○○にひなんしてください。」などの放送が聞こえなかったり、いろんなことでこまります。もし、自分が耳の不自由な人だったら「見た目ではわからないし、こまっていても気付かれない。」と思いました。もし、何かへんだなと思ったら、まず声をかけたり観察したいと思いました。